少人数指導の手引き
（小学校編）

平成 15 年 3 月

岡山県教育委員会

きめ細かな指導の充実と
確かな学力の育成を目指して

平成 13 年度から，基礎学力の向上ときめ細かな指導を目指して，第 7 次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画がスタートしました。これを受けて，岡山県でも平成 13 年度から，少人数指導のための教員の加配を開始し，少人数指導の充実に向けた様々な取り組みが始まっています。

少人数指導のねらい

少人数の集団編成による学習指導（少人数指導）を推進することによって，児童生徒の理解や習熟の程度，興味・関心などに応じたきめ細かな指導の充実を図り，確かな学力を育成する。

目　　次

はじめに　少人数指導によって生まれる新たな指導 …… 1

第１章　少人数指導を効果的に進めるための学習集団編成 …… 3
- ①　新しく学習集団を編成する際の基本的な考え方
- ②　目的を明らかにして学習集団を編成する重要性
- ③　具体的な学習集団の編成方法

第２章　少人数指導を効果的に進めるための指導方法 …… 7
- ①　少人数指導の学習効果
- ②　少人数指導を進めるための基本的な４段階
- ③　習熟度別指導の基本的な考え方
- ④　発展的な学習と補充的な学習
- ⑤　少人数指導の評価の工夫

第３章　少人数指導を効果的に進めるための指導体制 …… 11
- ①　学校全体の共通理解と協力体制
- ②　少人数指導を推進する係の設置

第４章　少人数指導実施上の Q＆A …… 12

第５章　少人数指導の実践事例（習熟度別指導／算数） …… 17

はじめに　少人数指導によって生まれる新たな指導

少人数指導が導入された背景

2002 年 4 月から「自ら学び，自ら考える力の育成や基礎･基本の確実な定着を図り，個性を生かす教育を充実すること」などをねらいとした新学習指導要領に基づく教育が全面実施されました。

今，社会の変化に合わせ，教育も大きな変革期を迎えています。学習指導要領の最低基準としての性格が明確にされ，学習指導要領に示していない内容を加えて指導することも可能となり，発展的な学習や補充的な学習による個に応じた指導の充実を図る必要性も出てきました。

学習指導要領の全面実施に先立つ 2001 年 3 月末，公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律，いわゆる義務標準法の一部改正が行われました。それに合わせ，「小学校においては国語･算数･理科，中学校においては英語･数学･理科で少人数授業を行うなど，教科等の特性に応じてきめ細かな指導を行う学校の具体の取り組みに対する支援」を内容の一つとした第 7 次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画（2001～2005 年度）がスタートし，少人数の学習集団編成による少人数指導が全国で行われるようになりました。

ここでいうところの少人数集団は，学級における生活集団ではなく，特別に意図的かつ計画的に形成される学習集団を指します。教科指導において意図的･計画的に形成される集団編成を行う最大の目的は，学習目標の達成です。つまり，すべての児童生徒をある基準に到達させるために少人数の学習集団編成を行い，指導しようというものなのです。

少人数指導の成果は地道な実践から生まれる

「少人数指導になると，指導は楽になる。」といった声を聞くことがあります。果たして，そうでしょうか。

かつて私が小学校教員をしていたとき，16 人の少人数学級を担任したことがあります。その時，算数科において一人一人の学習の成立を目指し，徹底して個に応じた指導を行いました。事前には，教材分析，教材解釈，教材開発とともに児童の発達，学力，学習スタイルの理解を行い，授業では，課題理解，問題解決のための思考や操作活動，形成的評価，発展や応用まで個に応じた指導を行ったのです。

【少人数指導の 6 過程】

1．児童・生徒理解，実態把握
2．学習コースの設定
3．少人数学習集団編成
4．教材開発，単元構成，評価計画
5．授業実践（個に応じた指導）
6．到達度評価

その結果，ほぼ全員が授業時間内にはじめに定めた評価規準に到達することができましたし，着実に学力を向上させていることを実感しました。この個に応じた指導は，少人数学級であったからこそできたのですが，かなりの労力を要し，授業後の労力は以前の比ではありませんでした。

このことからもお分かりいただけるように，一つの学習集団の人数が少なければ必ず子どもの学力が向上するのではなく，教師が少人数のよさを生かし，真に一人一人に応じた指導をするかどうかということが問題なのです。

少人数指導によって生まれる新たな指導とは，ひと言で言えば「個に応じた指導」です。そのためにはまず，子ども一人一人の能力･適性，興味･関心，行動の体系等の十分な把握を行わなければなりません。それとともに，各学校の人的･物的環境も考慮に入れ指導体制を整え，活性化を図る必要があります。また，指導方法の工夫による効果的な指導も重要です。一斉指導･グループ別指導･個別指導等の学習形態，理解や習熟の程度，興味･関心等に応じた課題や指導を工夫することも大切なことです。その他，指導の効果を求め，教師の得意分野を生かした教科担任制の導入や交換授業なども考えられます。

少人数指導の実践･研究を進め，確かな成果を示そう

現在，少人数指導は全国的に広がっており，研究も進んできています。文部科学省の発表によれば，習熟度別の少人数指導に取り組んでいる学校も増えてきているようです。しかし，相対的に見れば，機械的に分割した学習集団編成で少人数指導を実施している時間数が多いと考えられます。今後一層，確かな学力の向上を期待するならば，習熟度別の少人数指導を実施する時間数をさらに増やしていく必要があることは誰もが認めるところです。

少人数指導は，「分かる授業」「楽しい授業」を実現する指導として今最も注目されています。そのよさが広く保護者にも理解されるためには，各学校において指導法の研究を行い，真に一人一人に応じたきめ細かな指導や確かな学力の向上を図るとともに，その成果を具体的に授業を通して示していくことが大切です。

この「少人数指導の手引き」は，少人数指導を効果的に進めるポイントとなることをできる限り分かりやすく説明しています。是非，参考にしていただき，それぞれの学校において少人数指導の充実を図るための一助となることを願っています。

少人数指導は，教育上の必要性から生まれたものです。子どもや保護者，社会の要請に応えられる指導でなければなりません。今，現場の先生方には，地道な少人数指導への取り組みが求められています。

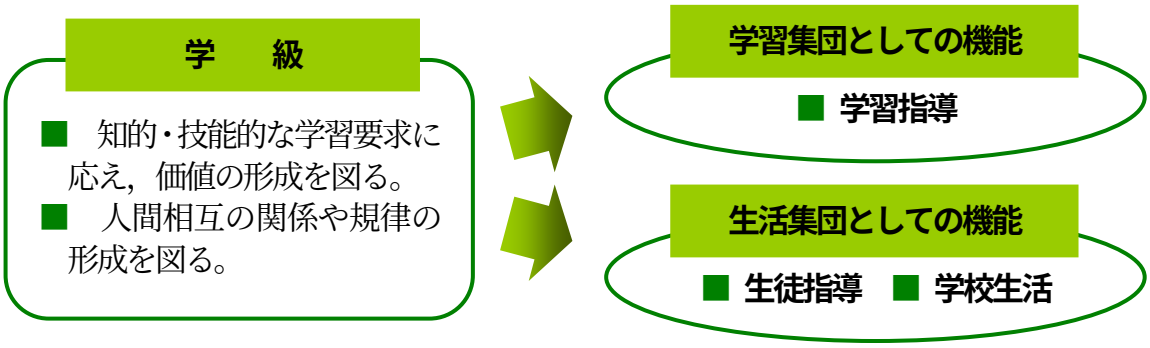
2003 年 3 月

少人数指導研究委員会　顧問
ノートルダム清心女子大学　山本　博和

第1章 少人数指導を効果的に進めるための学習集団編成

1 新しく学習集団を編成する際の基本的な考え方

「教職員配置の在り方等に関する調査協力者会議」は，これまでの一元的な学級のとらえ方を見直し，生徒指導や学校生活の場としての「生活集団」の機能と，学習指導の場としての「学習集団」の機能に分けて考える必要性を指摘しています。



少人数指導において新しく学習集団を編成する際には，学びの集団の人数という量的な側面だけでなく，児童一人一人が意欲的に楽しく学び，その学習のねらいを達成するためにはどのようにすればよいかといった学びの質を重視することが大切です。

2 目的を明らかにして学習集団を編成する重要性

新しく学習集団を編成する場合には，「なぜ，このように編成するのか」ということについて，事前に十分に検討しておく必要があります。

学習集団を編成する目的を明確にすることは，指導のねらいを明確にすることにつながります。指導のねらいが明確である授業は，児童の学力を確実に伸ばすことができます。

学習集団の規模を小さくすれば，それだけ一人一人の児童とかかわることができる時間が増えます。しかし，「児童一人一人とかかわる時間が増えること」と「一人一人にきめ細かな指導ができること」とは単純にイコールの関係にはなりません。少人数の学習集団を編成する効果は，教師がそのよさを生かす工夫（指導方法の改善など）を行ったとき，初めて生まれるのです。

ある少人数指導の事例では，「指導方法が従来の一斉指導と変わらないのであれば，40 人指導していたときと教育効果はほとんど同じである。」ということが報告されています。これは，教師が，少人数の学習集団を編成する目的を明確にしないまま指導に当たったことが最大の原因であると考えられます。

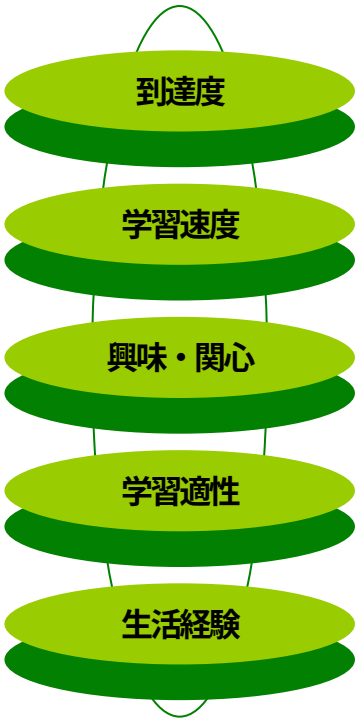
「なぜ，このように編成するのか。」

このことについて考えることから，少人数指導はスタートします。

3 具体的な学習集団の編成方法

学習集団の編成方法としては，元の学級集団を「機械的に分割」する方法，児童の「興味・関心」や「理解や習熟の程度」に応じて編成する方法があります。

「理解や習熟の程度に応じた編成」を行った場合は，編成されたそれぞれの学習集団を構成している児童の学力の違いが少なくなります。一方，「興味・関心に応じた編成」や「機械的に分割した編成」を行った場合は，元の学級集団の中に見られる学力の違いと同じようなばらつきが見られます。少人数指導を効果的に進めるためには，それぞれの編成方法の違いにより，その集団内の「個人差」の現れ方に違いがあることをよく理解し，適切に個に応じる手立てを講じる必要があります。



学習の中に見られる児童の個人差

機械的に分割した編成

○　元の学級を機械的に分割し，それぞれの学習集団の人数をほぼ同じにする編成方法。個人差には，各学習集団内で応じる。

理解や習熟の程度に応じた編成

○　児童の理解や習熟の程度を把握し，難易度の異なる幾つかのコースを設定して習熟度別指導を行うための編成方法。

興味・関心に応じた編成

○　児童の興味・関心に応じた学習課題を幾つか設定し，課題選択学習など，興味・関心別の学習を行うための編成方法。

少人数の学習集団を編成する際には，上に示した編成方法を固定的にとらえてしまわないようにすることが大切です。また，少人数指導を効果的に進めるためには，教師が学習内容や児童の実態に応じて，これらの編成方法を柔軟に組み合わせていく必要があります。

特に，機械的に分割した編成をする場合には，教師は，指導する児童の人数が少ないことを生かす指導を意識して行わなければ，これまでの指導で得られた以上の効果は期待できないことを十分に理解しておくことが必要です。

理解や習熟の程度に応じた編成方法について

一般に「習熟度別」と言われる学習集団の編成方法です。この編成方法は，学習を進めていく過程で，理解や習熟の程度に差が見られるようになった場合，診断テストやアンケートなどを実施し，その結果を基に児童の理解や習熟の程度に応じて，学習集団を編成する方法です。

理解や習熟の程度に応じた学習集団の編成には，次のようなよさが考えられます。

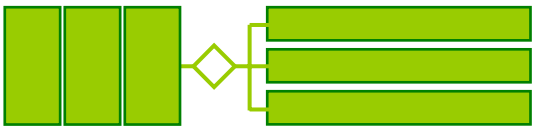
○　各学習集団内の個人差を小さくできるため，児童に応じた教材・速度で学習を進めやすい。そのため，個に応じた指導を充実させることができ，大きな学習効果が期待できる。

○　グループで学習を進めるなど，児童が主体的に進める学習を設定しやすい。

○　コース選択をすることで，児童の学習に対する自己評価能力を高めることができる。

習熟度別の学習集団を編成するタイミングは，多くの場合，単元の途中や終末に行うことになりますが，学習内容によっては，単元の最初から編成することも考えられます。いずれにしても，なぜその時間に習熟度別に編成するのか，十分に指導計画を練る段階から検討しておく必要があります。

■ **単元の途中や終末に編成**



■ **単元の最初から編成**

設定するコースの数は･･･

設定するコースの数は，2 ないし 3 コースを設定するのが現実的な方法と考えられます。一人一人の理解や習熟の程度に応じようとあまりにも多くの学習コースを設定することは，かえって指導が煩雑になり，効果が上がらないこともあります。実際には，少人数指導を担当する教員の数や余裕教室の数などの関係から，最大設定数が決まってしまうこともありますが，2 コース設定するにしても 3 コース設定するにしてもそれぞれ明確な意図をもって編成することが大切です。

学習するコースを決定するときには･･･

学習コースを決定する際には，児童自身の意思を尊重することが，大切です。すでに，習熟度別指導を実施し効果を上げている学校では，診断テストの結果など客観的な判断材料を一度家庭に持ち帰らせ，児童と保護者が事前に相談したり，教師の助言を受けたりしながら学習集団を編成するという方法をとっています。

最終的に，児童が学習の状況を自己診断し，適切な学習コースを自分で選択することができるようになれば，学力や学習意欲の向上といった面に一層効果が期待できます。なお，コース選択ついては，第４章のＱ＆Ａも参考にしてください。

興味･関心に応じた編成方法について

この編成方法は，例えば，単元の後半やまとめの段階に幾つかの学習課題を設定し，児童が自分の興味･関心に応じて学習課題を選択することによって学習集団を編成する方法です。学習内容によっては，単元の最初に，その学習の中心的な課題を提示し，その中で児童が追究していきたい課題を幾つか設定し，個人または少人数のグループを編成する場合もあります。いずれの場合においても，教師は，児童の学習意欲を高めるように，教材や学習内容を工夫し，児童が主体的に取り組めるようにする必要があります。

興味・関心に応じた学習集団の編成には，次のようなよさが考えられます。

- ○　児童の興味・関心が高まり，学習を深めやすい。
- ○　グループで学習を進めるなど，児童が主体的に進める学習を設定しやすい。
- ○　指導内容や評価の共通理解をすれば，指導方法についての教師の裁量が多くなる。

なお，興味・関心に応じた学習集団の編成については，Ｑ＆Ａも参考にしてください。

機械的に分割した編成方法について

出席番号の偶数奇数などで元の学級を機械的に分割し，それぞれの学習集団の人数がほぼ同じになるようにする編成方法です。この編成方法は，40 人では実施しにくい教材を使う授業や作業的・体験的な授業を積極的に行うことが可能になります。また，学級集団をそのまま小さくした集団となることから，児童の発表，演習・練習の回数や時間を増やすことも考えられます。編成が簡単で児童や保護者の抵抗感が少なく，教師も児童も個別指導の充実を実感できる方法であり，学年始めの児童同士や教師と児童の人間関係が十分でないときにも安心して指導できる方法と言えます。

機械的に分割した学習集団の編成には，次のようなよさが考えられます。

- ○　短時間で学習集団を編成できる。
- ○　少人数指導の学習集団を複数教科で共通にすると，同学年で交換授業が可能になり，教師の得意分野を生かした授業を展開しやすくなる。
- ○　教師同士が同じ教材・教具を使用できるなど互いに協力しやすい。

しかし，この編成方法の場合は，指導方法が一斉指導を中心としたものである場合，学習効果はその授業のレベルに合った児童のみに見られ，全体としてはこれまでの指導の効果と大きな違いが見られないことが報告されています。（第２章も参照してください。）

したがって，この編成方法は，一斉指導を中心とした今までと同じ指導方法にならないように気を付け，少人数だからこそ可能な教材や教具の準備をしたり，グループ学習を取り入れやすい学習環境を用意したりするなど，指導方法の工夫改善をしていくことが最も強く求められる編成方法と言えます。

第2章 少人数指導を効果的に進めるための指導方法

1 少人数の学習集団だからできる指導

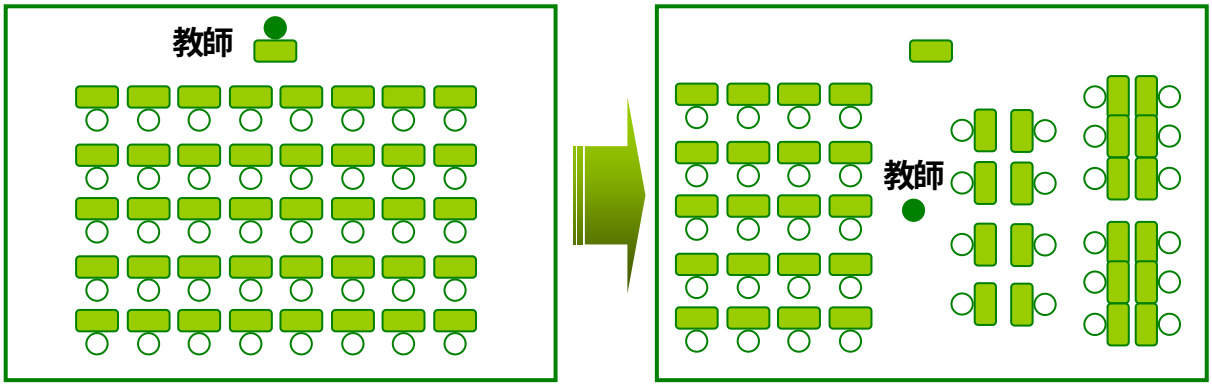
少人数指導が導入され，多くの学校からは「きめ細かい指導ができる。」「児童の学習意欲が向上した。」と報告されています。これは，少人数の学習集団を編成して指導すること自体が生むよさと考えられます。しかし，繰り返し述べてきているように，指導方法が従来とあまり変わらないのであれば，このような結果が常に期待できるとは言えません。

「今日の授業は，本当に少人数の学習集団を編成したからこそできる指導になっていたか。」

教師は，常に自分自身の指導方法を振り返り，指導方法の工夫改善を図る努力をしていくことが大切です。

多様な学習空間をつくることから始めよう

少人数指導の導入に当たっては，教師と児童が多様な学習環境での授業に早く慣れることが大切です。そのために，通常の学習においても，下の図のように，黒板を背にした一斉指導の学習環境に，児童の机の並び方を少し変えた学習空間を作るだけで，個に応じた柔軟な指導をする手がかりが発見できます。



このように，机の配置が変わると，教師は自然に授業する位置を変えます。さらに，児童も学習課題や興味・関心，学習方法の違いなどによって座る場所を変えていきます。

このような学習環境での授業に慣れてくると，児童の理解や習熟の程度の違いにより教室内に幾つかの学習コーナーを設定し，児童はそれぞれの場所に移動して学習を進めるといったこともできるようになってきます。

様々な学習空間をつくること自体が目的にならないように気を付ける必要はありますが，柔軟な学習指導を行うためには，少人数指導を実施しない教科においても積極的にこのような学習環境を取り入れていくことも効果的です。個に応じた指導のねらいは，児童一人一人の学習を成立させることです。日頃から，このような学習環境で指導を進めることは，個に応じた指導を充実させていく第一歩となるのです。

2 少人数指導を進めるための基本的な4段階

少人数指導を効果的に進めるための重要なポイントは，これまで多くの学校で実施されてきたティーム・ティーチングの実践の中に数多く存在します。

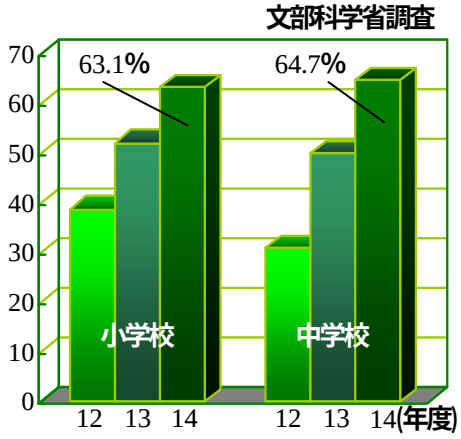
例えば，ティーム・ティーチングで重要なこととして常に言われてきた「指導の 4 段階すべてにおいて，教師が常に協力体制をとることが大切である。」ということは，少人数指導を効果的に進めるためにも重要なポイントとなります。この理由は，少人数指導は，基本的には，学級集団とは別に幾つかの学習集団を編成して指導に当たりますが，広い意味でとらえれば，ティーム・ティーチングの一つの指導形態ととらえることができるからです。

少人数指導も，ティーム・ティーチングと同様に，教師が互いにどれだけ綿密な打ち合わせを行い，協力体制が取れるかという点に成否がかかっています。ティーム・ティーチングで効果を上げている学校では，朝の職員朝会の後，休み時間，学年会，放課後の時間などを利用して，可能な限り「打ち合わせの時間」を生み出す努力をしています。少人数指導は，別々の学習空間で指導する場面が多くなるため，このような工夫は，これまで実施されてきたティーム・ティーチング以上に重要となります。

3 習熟度別指導の基本的な考え方

少人数指導のねらいは，きめ細かな指導の充実と確かな学力の育成です。その中で，今，最も注目されているのが「習熟度別指導」です。習熟度別指導の導入は，児童一人一人の学力の向上に大きな効果を生むと期待されています。

文部科学省の発表（2003 年 2 月）によれば，平成 14 年度に習熟度別の少人数指導を実施している学校の割合は，小学校，中学校ともに全体の約 6 割以上であり，全国的に習熟度別指導へ取り組む学校が増えてきています。



習熟度別の少人数指導実施状況（全国）

習熟度別指導の基本的な考え方は，児童一人一人に確かな学力を身に付けさせるための指導です。したがって，習熟度別指導を実施する際には，これまで以上に，児童一人一人の理解や習熟の程度を的確に把握する能力とそれぞれの児童の状況に応じた指導方法を用いることができる力が教師に要求されます。

習熟度別指導は，これまでの画一的な指導になりがちであった学校教育に対して，大きな発想の転換を求めています。

保護者へ自信をもって説明するために

習熟度別指導のねらいは，「理解力」「表現力」「思考力」「判断力」「問題解決能力」などの「学力」全体を伸ばすことです。知識・理解や技能・表現の観点における習熟の程度の違いだけを問題にするのは，習熟度別指導を非常に狭い意味でとらえていることになります。

習熟度別指導は，児童の学習の状況を的確に把握し，個に応じた指導の充実を図ることがねらいです。習熟度別指導を行う際には，教師は児童の学力を固定的にとらえないように常に意識して指導に当たることが大切です。

具体的なデータやアンケートで･･･

習熟度別指導は新しい指導方法であるため，児童や保護者に十分に説明し理解を得ることが大切です。保護者に習熟度別指導について説明する際には，できる限り分かりやすい表現で，具体的にその意義や効果について示す必要があります。効果を示す際には，教師の感覚で示すのではなく，具体的なデータで示すことが大切です。そのためには，日々の授業において常に評価を行い，実際にどのような力がどの程度伸びているのかを具体的に記録し，蓄積していく努力を重ねていく必要があります。

また，児童や保護者にアンケートを行い，その結果を報告するとともに，指導方法等の改善を図る参考とすることが大切です。

1　算数の○○の単元で，コース別に分かれた学習をしたことについて，どのように思いましたか。
(1) 学習したことはよく分かりましたか。
・分かった・ふつう・分からなかった
(2) 学習するコースを自分で選ぶことについてどう思いましたか。
・よい・ふつう・よくない
(3) コース別に分かれて学習することについて，希望や感想を自由に書いてください。

児童用アンケートの例

1　算数の○○の単元で，コース別に分かれた学習をしたことについてお尋ねします。
(1) 児童が選んだコースで学習することはどのように思われますか。
・よい
・どちらかというとよい
・どちらともいえない
・どちらかというとよくない
・よくない
(2) その理由をお書きください。
2　コース別学習についてのご感想ご意見がありましたら，自由にお書きください。

保護者用アンケートの例

4 発展的な学習と補充的な学習

平成 14 年 8 月に，文部科学省から「個に応じた指導に関する指導資料」が出されました。この中で，文部科学省は，発展的な学習と補充的な学習を次のように定義しています。

発展的な学習

学習指導要領に示す内容を，身に付けている児童を対象とした学習

- ○ 内容の理解をより深める学習
- ○ さらに進んだ内容についての学習

補充的な学習

学習指導要領に示す内容を，まだ十分に身に付けていない児童を対象とした学習

- ○ 内容の理解を確実にする学習
- ○ 内容の確実な定着を図る学習

個に応じた指導を充実させるためには，児童の習熟や理解の程度を客観的に判断し，発展的な学習と補充的な学習を可能にする教材や教具を準備する必要があります。補充的な学習では，繰り返し学習がその基本スタイルとなりますが，教具や指導内容を変えるなどして単調な反復練習にならないように工夫します。また，発展的な学習では，学習指導要領に示す内容と関連のある指導内容にすることが大切です。

先に紹介した指導資料には，具体的な参考事例が示されています。各学校においてはこれらを十分に活用し，発展的な学習と補充的な学習についても充実を図ることが必要です。

5 少人数指導の評価の工夫

新教育課程の実施に伴い，目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）が全面的に導入されました。目標に準拠した評価の導入は，少人数指導など学習集団の多様化への対応も目的にしています。集団の外にある評価規準に照らして評価することにより，学習集団による評価の差をなくすことができます。しかし，これまで以上に評価の客観性が課題となっており，評価規準や評価方法の開発と共通化が求められています。

客観性のある評価とは，「評価する人，される人，利用する人が納得できること」です。評価をする際には，これまでの経験を生かすとともに，次のような点に気を付ける必要があります。

なお，評価については，第４章のＱ＆Ａも参考にしてください。

- ○ 関心・意欲・態度の評価は，教科の学習自体への関心等の評価であり，学習態度のみに偏らないようにすること。
- ○ 評価規準を作成し，全教師で共通理解を図ること。
- ○ 学習した結果を評価するだけでなく，評価したことを指導に生かす工夫をすること。
- ○ 観点別学習状況の評価を評定に総括するときに，安易に重み付けをしないこと。

第3章 ～少人数指導を効果的に進めるための指導体制～

1 学校全体の共通理解と協力体制

少人数指導を効果的に進めるためには，学校全体で取り組む姿勢が大切です。

各学校においては，新しい年度がスタートする前に，児童の学習状況を把握し，課題を洗い出して少人数指導を行う教科，学年，時間数等を明確にすることが必要です。年度当初の職員会議などでは，少人数指導の時間を確保するために時間割の作成や変更について配慮することを全職員に伝え，少人数指導が学校全体の共通理解と協力体制の下に実施できるようにすることが大切です。また，教育課程編成の方針に少人数指導のねらいを明記したり，どの学年のどの単元で少人数指導を実施するかを，事前に年間指導計画に位置付けたりすることも大切なことです。さらに，校内研修で少人数指導についての研修を取り上げ，その基本的な考え方を理解したり，積極的に校内で少人数指導の授業を公開し，互いに授業について検討したりすることも，学校全体の共通理解を図る有効な手段となります。

2 少人数指導を推進する係の設置

学校全体で少人数指導を進めるためには，少人数指導推進委員会などを校内に設置することが有効です。校長，教頭，教務主任，研究主任，学年主任，少人数指導担当などを構成メンバーとし，学校全体として少人数指導を効果的に進めるための方策を練ります。

現在，少人数指導は，国語，算数，理科を中心として実施されていますが，少人数を生かす指導を行えば，すべての教科で大きな教育効果を得ることが可能と考えられます。

また，少人数指導を実施する学年についても十分に検討をする必要があります。例えば，その年々によって教員の都合で安易に少人数指導を実施する学年を決めてしまうと，場合によっては，6 年間一度も少人数指導による授業を受けない学年が出てしまうようなことも考えられ，保護者からの信頼を失いかねません。

そこで，設置した少人数指導を推進するための係を中心として，少人数指導を実施する学年や教科について，新しい年度が始まる前に十分に検討を行い，その学校に最もふさわしいと思われる全体計画案を作成することが大切になってきます。その後，職員会議などの場を利用して，全職員でさらに十分な検討をして最終的に決定するのです。

少人数指導の実施に当たっては，それが少人数指導を実施する学年や少人数指導担当の教員だけに一任されることは，絶対にさけなければなりません。少人数指導は，学校全体の課題解決のために実施されてこそ初めてその意味をもつのです。

少人数指導は，基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育を実現する方策として，最も効果が期待できる指導方法です。各学校が，指導方法を工夫改善し，学校全体で推進していくことが強く求められています。

第4章 ～少人数指導実施上のＱ＆Ａ～

Q1 少人数指導担当と担任との連携が大切であると思いますが，具体的にどのような点に配慮すればよいのでしょうか？

少人数指導を効果的に進めるためには，特に，次のようなことに配慮しましょう。

○ 少人数指導についての共通理解

少人数指導担当者の配置が決まってまず行わなければならないことは，どのように少人数指導を進めていくのかを決めておくことです。少人数指導担当と担任（または，学年）で，少人数指導のねらいや集団編成の仕方，指導方法，役割分担などについて十分話し合っておき，互いの共通理解の下に少人数指導を行うことが大切です。

また，定期的に，少人数指導についての委員会等を開いて，成果や課題について話し合うことにより，より効果的に少人数指導を実施することができます。

○ 授業に入る前の共通理解

新しい単元に入る前には，単元の目標を明確にし，指導計画を少人数指導担当と担任とで協力して立てるようにします。その際，学習内容，準備物（教材，教具，プリント等），評価規準，評価方法などについて十分共通理解しておくことが必要です。そして，単元の指導計画がまとまったら，時間ごとの学習の進め方やその時間の指導のポイント，準備物，進度，家庭学習の内容等についても，時間を確保して，こまめに打ち合わせをします。

○ 授業後の情報交換

授業が終わったら，できるだけその都度，授業での児童の反応や理解度，学習の進度などについて報告し合い，次時の授業の流れを確認したり，指導計画の修正や家庭学習の内容の検討をしたりするように心がけます。

○ 打ち合わせの時間確保

少人数指導担当と担任が連携を図るには，打ち合わせの時間を確保することが必要不可欠です。例えば，朝の時間や休憩時間などを活用してこまめにうち合わせをすることが考えられます。さらに，週１回程度は，学年会等を利用して授業計画・教材作りを共に行う時間をもつようにします。

また，職員室での少人数指導担当と少人数指導を実施する学年教師の机の位置を近くに配置することは，話し合う時間を確保する有効な工夫と言えます。

限られた時間を有効に使うためには，単元毎に元になる指導計画を作成しておく担当を決めておいたり，教材・教具等を分担して作成したりするなど，役割分担を明確にしておくことが大切です。

Q2 少人数指導の実施について，保護者へ説明するとき，どのような点に配慮すればよいでしょうか？

少人数指導のねらい等をできるだけ早い時期に説明することが大切です。方法としては，学校通信や学年通信，懇談会が考えられます。また，説明は，少人数指導を実施している学年だけに行うだけでなく，全学年の保護者に行うことが大切です。そのためには，すべての教員が少人数指導のねらい等を共通理解し，説明できるようにしておくことが大切です。

説明する内容には，次のことを入れておきましょう。

○　どのような学習効果をねらうのか。
○　どうして，その学年や教科で実施するのか。
○　どのようにして学習集団を分けるのか。
○　だれが指導をするのか。指導者の交替はあるのか。
○　どのような指導方法を行うのか。
○　どのように評価を行うのか。

習熟度別指導を取り入れる場合は，特にそのねらいとコース別の指導内容，また，コースの選択方法について詳しく説明しておく必要があります。

Q3 習熟度別指導で，児童が学習コースを選択する場合には，どのような点に配慮すればよいでしょうか？

コースによって，児童に優越感や劣等感を感じさせないために，事前に十分なガイダンスを行うことが大切です。また，コースのネーミングを工夫したり，担当する教員や学習集団，教室などを固定しないように配慮したりすることが必要です。なお，ガイダンスについては，実践事例を参考にしてください。

○　保護者の理解と協力のもとで

コースの選択はガイダンスやアンケート，自己診断テストなどを基に児童自身が行うことを原則としますが，低学年の児童は保護者と一緒に決めるなど，児童の発達段階や実態に応じながら，常に，保護者の理解と協力のもとでコースを決定します。

そのためには，保護者に対して，少人数指導の学習の様子を学年通信，学級通信，学級懇談，個人懇談などで知らせたり，積極的に授業公開したりするなどの工夫が大切です。また，必要に応じて，教師が助言することがあることも伝えておきます。

○　人数に偏りが出た場合

効果的な授業を進めるためには，各コースの人数は大切な要素です。そのためには，ガイダンスを充実させるとともに，適切なコース選択ができていない児童には，個別に話をしたり，学習後しばらくは変更を受け付けたりする等の対応が考えられます。

このような対応によっても偏りが解消されない場合は，児童の希望を優先し，教師の指導方法や指導体制の工夫によって対応する柔軟さが必要です。習熟度別の学習に慣れてくると，児童は，自分に適しているコースを正しく判断できるようになります。

Q4 評価をする場合，どのような点に配慮する必要があるでしょうか？

少人数指導では，指導者一人による一斉指導に比べ，児童の学習の様子や変容した姿をよりきめ細かに観察することができます。そのため，知識や理解の評価だけではなく，興味・関心・意欲や思考力，表現力など，児童一人一人の学力や可能性を多面的に認めることができるというよさをもっています。複数の指導者で児童を評価するとき，次の点に配慮しましょう。

○　授業前の配慮事項

・　学習単元のねらいや指導内容をはっきりさせ，評価規準を作成します。
・　単位時間ごとの目標や指導内容を組み入れた授業の展開案を作成し，どの評価項目をどの学習場面で，どの方法（観察，自己評価，相互評価，テスト，ワークシートなど）を使って評価するのか，指導者同士がしっかり話し合って共通理解を図っておきます。このとき，評価規準に最も適した評価方法を選択することが大切です。また，数値に置き換えることのできる評価方法なら，より比較検討しやすいと思います。
・　評価の記録簿（チェックリスト，書き込みのできる座席表，自己評価表など）を作成しておくと，授業後の情報交換や評価の見直しに役立ちます。

○　授業中の配慮事項

・　授業の展開案に基づいて授業を実施します。評価規準や評価方法を意識して授業に臨み，共通の評価項目を共通の方法で評価し，記録を残します。

○　授業後の配慮事項

・　評価についての情報交換は，単元が終了してしまった時点で情報交換をするのではなく，毎時間指導が終わった後，記憶の新しいうちに指導者同士で情報交換をすることが大切です。そうすることによって，より客観的な評価ができるようになります。その時間が取れない場合でも，授業の評価記録などは交換し，次の指導に生かすようにします。

以上のような点に十分な配慮を行えば，指導に当たった教師の評価が大きく異なることはほとんどなくなると考えられます。しかし，結果的に，評価に「ずれ」が起こってしまった場合には，評価が異なっている原因について，指導に当たった教師同士で十分に話し合うことが必要です。

具体的には，

・　設定した評価規準が曖昧な表現になっていなかったか。
・　評価場面に無理はなかったか。
・　評価方法は適切であったか。

などについて，話し合います。

Q5 少人数指導は，算数科で実施されている場合が多いようですが，他の教科での実施例があれば教えてください。

A

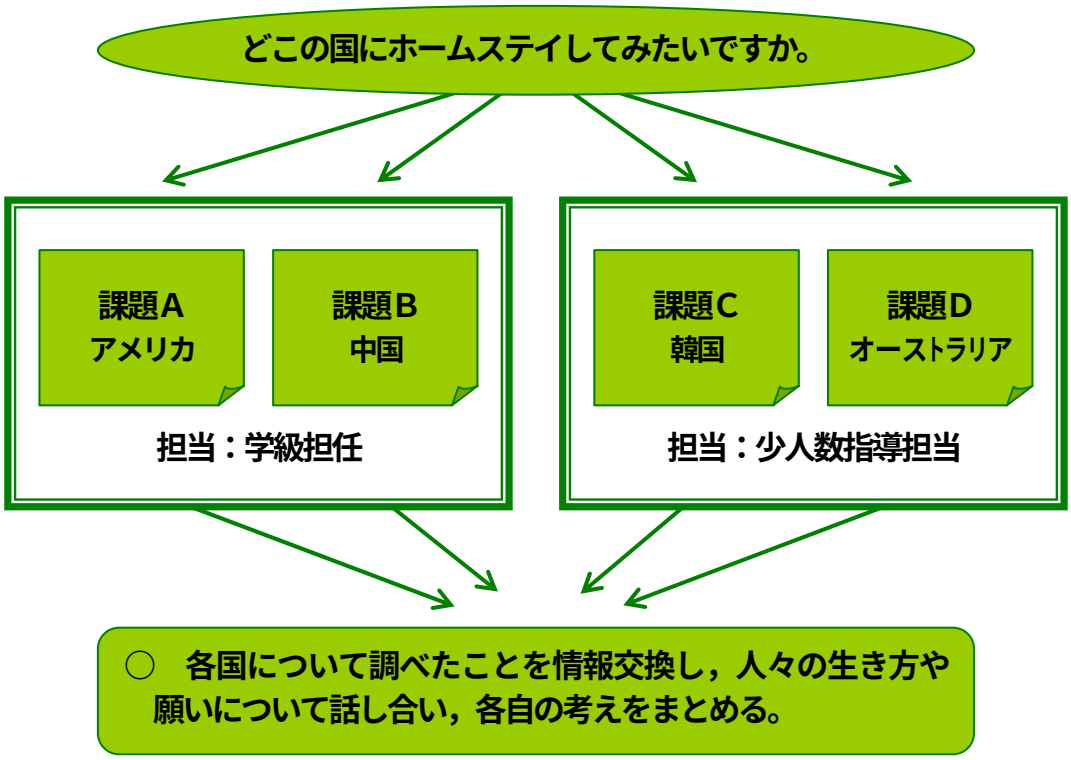
小学校の場合，少人数指導を実施している教科は算数が多くなっていますが，実施する学校数は少なくても，国語や理科をはじめ，社会，体育などほとんどの教科で少人数指導が実施されています。これらの実践事例の多くは，興味・関心に応じた学習集団や機械的に分けた学習集団を編成して行われています。これらの教科に習熟度別指導を取り入れている例は，まだ少なく，これからの取り組みが期待されています。

いずれにしても，各教科における児童の実態を的確に把握し，どの教科で，どのような力をつけたいのかを明確にし，計画的に少人数指導を実施することが大切です。

ここでは，社会科において「興味・関心に応じた学習集団」を編成して指導した事例を紹介します。

○　事例１　単元名「日本とのつながりのある国」（第６学年）

日本とつながりの深い国に住んでいる人々の生活の様子について学習する場面で，興味・関心に応じた学習集団を編成した少人数指導を取り入れました。学習の進め方としては，様々な国について児童に自由に調べさせることから始めることも可能ですが，本実践では，日本とつながりが深く，児童が興味をもちやすいアメリカ，中国，韓国，オーストラリアの四つの国に限定し，児童に調べさせることにしました。

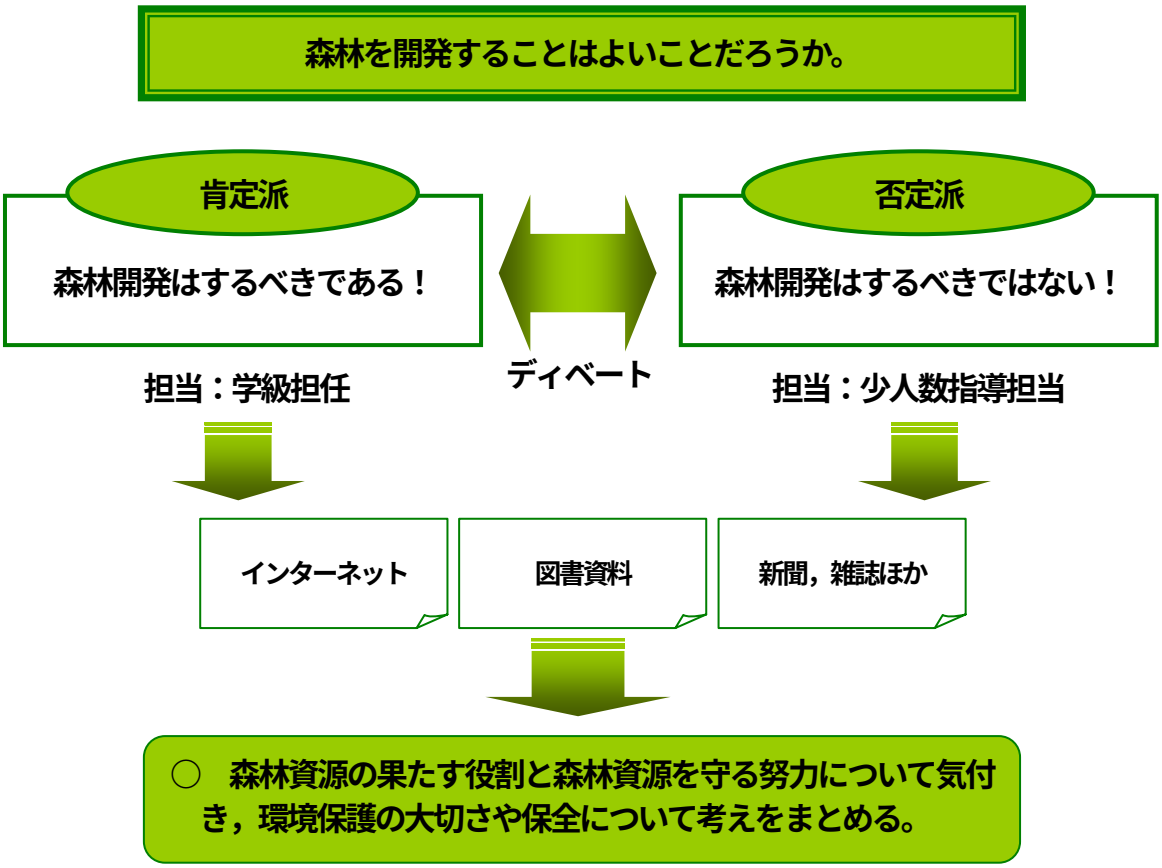


児童は，インターネット，図書資料，インタビューなどを活用し，日本とつながりの深い国に住む人々の生活の様子や文化を具体的につかみ，異なる文化や生活習慣を理解し合うことが外国の人と共に生きる上で大切なことであることに気付いていきました。

○　事例２　単元名「わたしたちの国土と環境」（第５学年）

森林の働きについて学習する場面で，ディベートの学習形式を取り入れました。児童は，自分の考えに基づき，肯定派と否定派に分かれて十分な議論をしました。大きな意味で言えば，これも児童の興味・関心に応じた学習集団を編成した少人数指導ととらえました。

学習の導入部分では，森林開発をしている一枚の写真を見せました。児童は，たくさんの木が切り取られ，茶色の地肌が出ている写真にすぐさま引き込まれていきました。児童が森林開発に対して興味・関心をもったところで，「森林を開発することはよいことだろうか」ということを投げかけました。



○　少人数指導の効果について

- 事例１，事例２いずれの場合も，自分の興味・関心に基づいて選択した課題であるため，児童は意欲的に調べ学習に取り組むことができました。
- 担任教師と少人数担当が，あらかじめどの課題について選択した児童を担当するか決めておくことが可能になるため，資料などの準備を適切に行うことができました。また，少人数の学習集団であるため，児童一人一人の思いや考えを把握することができ，助言や支援について，少人数の学習集団であるため，よりきめ細かな指導ができたと感じました。

第5章 少人数指導の実践事例（習熟度別指導／算数）

1 小単元ごとに習熟度別指導を取り入れた事例
単元名「2 けたでわるわり算」（第 4 学年）

1 本実践について

本事例は，第 4 学年の算数「2 けたでわるわり算」の単元で実施した習熟度別指導を取り入れた少人数指導の実践を簡単にまとめたものである。

本実践の特徴は，四次ある小単元ごとに，習熟度別指導を取り入れたところにある。これまで，本校での算数科における個に応じた指導は，一斉指導の中で行う机間指導の充実を中心に考えてきたが，学級の児童数が多いと，児童一人一人の理解や習熟の程度の差に十分応じた指導はなかなかできにくい現状があった。そこで，本単元の指導では，機械的に分割するだけでなく，児童のリーダー性，思考力，理解力，表現力等を考慮した学習集団を編成して指導に当たることを考えた。

教師が意図的に学習集団を編成し，少人数指導を行うことで，今までよりも個々の児童にかかわる機会が増え，児童一人一人の実態を把握しやすくなると考えられる。実態把握が十分にできるようになれば，その分，きめ細かな指導も可能になるはずである。しかし，いくら均質な学習集団を編成しても，それぞれの学習集団には，豊かな思考力や理解力をもち，スピーディーに学習を進める児童と理解するのに時間を要する児童が混在することには変わりないため，中間層に焦点を当てた授業を展開せざるを得ない。したがって，小単元ごとに「学習の振り返り」を行い，基礎・基本コースと習熟・発展コースの 2 コースに分かれて学習をする習熟度別指導を取り入れることにした。特に，4 回取り入れた最後の習熟度別指導については，習熟と発展を各 1 単位時間設定し，より児童の学習の理解や習熟の程度に応じられるようにした。

2 小単元ごとに習熟度別指導を取り入れた指導計画

(1) 学習集団の編成方法

① 小単元ごとの基本となる学習集団

児童の能力や適性（リーダー性，思考力，理解力，表現力等）を考慮して，教師が意図的に均質な二つの学習集団を編成する。

② 小単元ごとに位置付けた習熟度別指導での学習集団

均質な学習集団で 2～3 単位時間学習した後，「学習の振り返りシート」により児童が自分の学習状況を自己診断し，基礎・基本コースと習熟・発展コースのいずれかのコースを選択して学習を進める。

(2) コースの概要

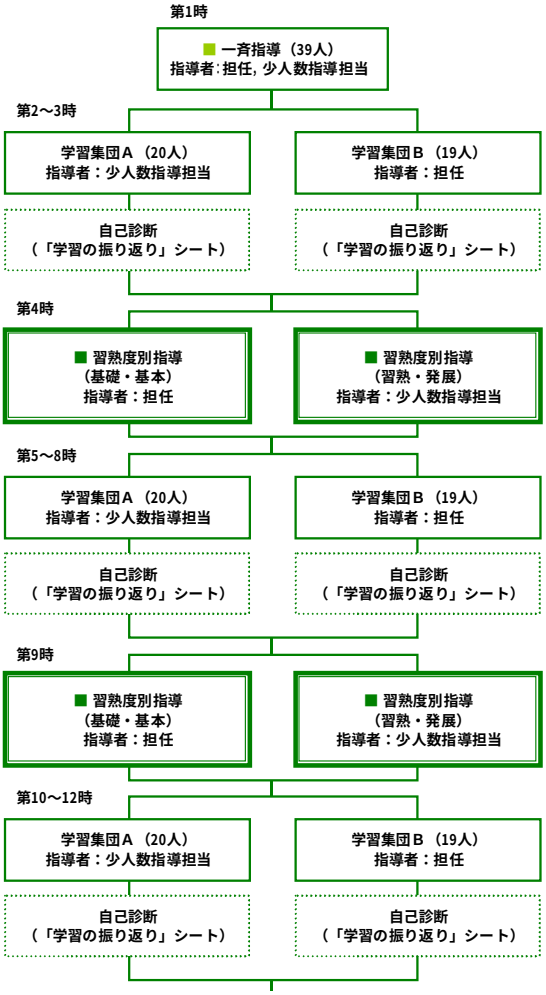
① 基礎・基本コース

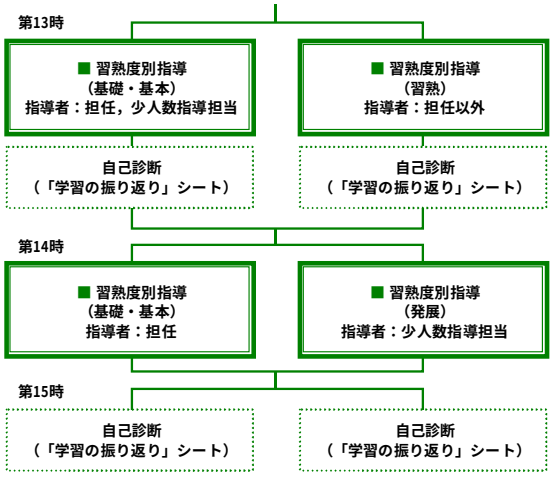
各小単元での学習内容を復習したり，理解が不十分な内容を補充学習したりすることにより，その単元での基礎・基本を確実に身に付けるためのコース。名称は，「にっこりあったかコース」とする。

② 習熟・発展コース

学習内容を習熟，発展できる学習材を準備し，より数学的な考え方，表現・処理，知識・理解等の能力を高めるコース。名称は，「どくどくいきいきコース」とする。

(3) 学習の流れ





■ 配慮事項

○担任と少人数指導担当との綿密な打ち合わせ

・毎時間の具体的な評価規準を協力して作成し，目標を明確にして授業ができるようにする。

・習熟度別指導や均質な学習集団での指導の状況を授業が終わるごとにできる限り情報交換する。

○コース選択のためのガイダンス

・「学習の振り返り」をした後には，必ず次の時間に実施する習熟度別指導（チャレンジタイム）に設定する二つのコースの学習内容を分かりやすく児童に伝える。

・習熟度別指導での学習コースの選択は，児童自身が自己決定することを基本とするが，明らかにコース選択が不適切と思われる児童には，教師が助言を与える。

3 まとめ

小単元ごとに習熟度別学習を取り入れたことで，児童一人一人の理解や習熟の状況に応じた指導ができたと考える。特に，努力を要する状況の児童にとっては，理解が不十分な部分が多くならないうちに補充的な学習が可能になり，通常の一斉指導と比較して，より学習内容の確実な定着につながった。

学級集団，それを均質に分けた学習集団，習熟度別の学習集団には，それぞれのよさがあり，本実践を通して，必要に応じてそれらの学習集団の編成方法を組み合わせて指導に当たることの大切さを実感した。今後も，効果的な少人数指導の在り方を探っていきたい。

2 習熟度別指導のコース選択におけるガイダンスを工夫した事例
単元名「三角形と四角形」（第２学年）

１　本実践について

本事例は，第２学年の算数「三角形と四角形」の単元で実施した習熟度別指導を取り入れた少人数指導の実践を簡単にまとめたものである。

本実践の特徴は，習熟度別指導を進めるために「基礎コース」と「発展コース」の２コースを設定し，基礎コースは「スモールステップ」，発展コースは「レギュラーステップ」というそれぞれの学習内容に合った進め方を設定したことにある。補充的な学習が必要な児童は，学習内容を理解することに時間がかかる場合が多く，学習内容を幾つかに分け，一つ一つを確実に理解しながら学習が進められるようにする。また，学習内容の理解がおおむね満足できる状況の児童には，各学習内容が習得できた時点で，発展的な学習に取り組ませ，児童一人一人の理解や習熟の程度に合った学習が進められるようにする。

２　習熟度別指導のコース設定とコース選択のためのガイダンスの工夫

(1) 設定した二つの学習コース

基礎コース （スマイルコース）	発展コース （ハッピーコース）
○　**学習の進め方** スモールステップ ○　**コースの概要** 作業的，体験的な算数的活動をできるだけ多く取り入れ，学習内容を小項目に分け，一つずつ確実に理解しながら学習を進める。	○　**学習の進め方** レギュラーステップ ○　**コースの概要** 通常の学習指導とほぼ同じようなペースで学習を進めることを基本とし，学習内容が習得できた時点で，発展的な学習に自分のペースで取り組む。

児童の理解や習熟の程度に応じて，基礎コースと発展コースの２種類のコースを設定する。また，コース名は，各学習コースにレベルの差があるような感じを児童がもたないように配慮した名称を用いる。

本単元は，すべての時間において習熟度別指導を行う。単元の始めには，２コースに分かれて学習をすることや，各コースの学習内容についてのガイダンスを行うようにする。コースを選択するのは，基本的に児童自身の意志を尊重するが，第２学年ということもあり，コース選択用紙を家に持ち帰らせ，保護者と相談して決めることもできるようにした。その際，保護者向けのお便りやコース分けに使うプリントも分かりやすい表現になるように配慮した。また，「自己診断テスト」を実施し，コース選択の資料として活用した。

(2) コース分けのためのガイダンス

児童へのガイダンスは，担任教師と少人数指導担当が協力して行う。ガイダンスを行う際の手持ち資料として次のような説明の要点を書いたプリントを準備した。

習熟度別学習のコース分け「ガイダンス」

1　次の「**三角形と四角形**」の勉強は，自分に合ったコースを選んで勉強します。１年生で習ったことを思い出してみよう。

2　**自己診断テスト**をする。
（時間は診断テストの内容を見て伝える。できたら感想を書く。）

3　**自己採点**をする。

4　**選択コース**を決定する。（自己選択カード）
〇カードに書いてあることを説明。
・「三角形と四角形」の勉強は，自分のペースに合わせて，コースを選んで学習していきます。
・次の２つのコースがあります。どちらを選びたいかですか？自分でよく考えて決めましょう。

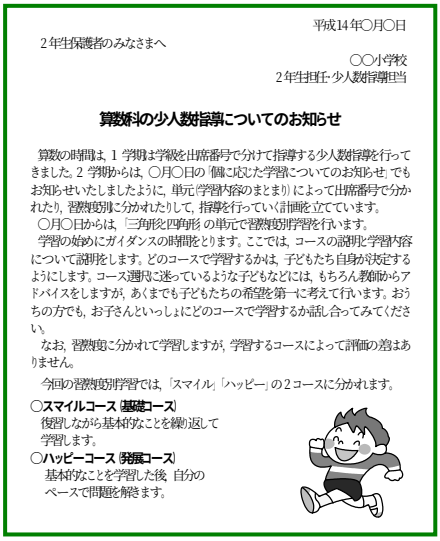
【スマイルコース】
復習しながら基本的なことを繰り返して学習します。

【ハッピーコース】
基本的なことを学習した後，自分のペースで問題を解きます。

〇自分がやりたいコースを選ぼう。
（友達に流されないようになど。）
〇選んだ理由も書きます。
〇迷ったら先生に相談してください。
〇途中で変わることもできます。その時は先生に言ってください。
〇自分で決めにくい人は，お家の人と相談してもよろしい。
（アンケート用紙をもう一枚渡し，翌日集める。）

5　**自己選択カード**と**自己診断テスト**を集める。
☆保護者と相談の児童のカードも集めておく。翌日，確定する。
☆自己診断テストで，教師が診断し実態の把握をしておく。

6　**コースの先生**と**教室**は，後で発表します。
☆　ガイダンス後の自己選択で，本人の意志を尊重します。


平成14年〇月〇日

２年生保護者のみなさまへ

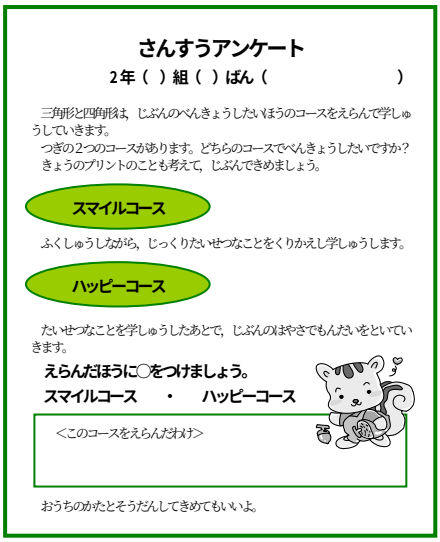
〇〇小学校
２年生担任・少人数指導担当

算数科の少人数指導についてのお知らせ

算数の時間は，１学期は学級を出席番号で分けて指導する少人数指導を行ってきました。２学期からは，〇月〇日の「個に応じた学習についてのお知らせ」でもお知らせいたしましたように，単元（学習内容のまとまり）によって出席番号で分かれたり，習熟度別に分かれたりして，指導を行っていく計画を立てています。
〇月〇日からは，「三角形と四角形」の単元で習熟度別学習を行います。
学習の始めにガイダンスの時間をとります。ここでは，コースの説明と学習内容について説明をします。どのコースで学習するかは，子どもたち自身が決定するようにします。コース選びに迷っているような子どもなどには，もちろん教師からアドバイスをしますが，あくまでも子どもたちの希望を第一に考えて行います。おうちの方でも，お子さんといっしょにどのコースで学習するか話し合ってみてください。
なお，習熟度別に分かれて学習しますが，学習するコースによって評価の差はありません。
今回の習熟度別学習では，「スマイル」「ハッピー」の２コースに分かれます。

〇**スマイルコース（基礎コース）**
復習しながら基本的なことを繰り返して学習します。
〇**ハッピーコース（発展コース）**
基本的なことを学習した後，自分のペースで問題を解きます。

■　**保護者向けのお便り**


さんすうアンケート

２年（　）組（　）ばん（　　）

三角形と四角形は，じぶんのべんきょうしたいほうのコースをえらんで学しゅうしていきます。
つぎの２つのコースがあります。どちらのコースでべんきょうしたいですか？
きょうのプリントのことも考えて，じぶんできめましょう。

スマイルコース

ふくしゅうしながら，じっくりたいせつなことをくりかえし学しゅうします。

ハッピーコース

たいせつなことを学しゅうしたあとで，じぶんのはやさでもんだいをといていきます。

えらんだほうに〇をつけましょう。
スマイルコース　・　ハッピーコース

＜このコースをえらんだわけ＞

おうちのかたとそうだんしてきめてもいいよ。

■　**コース分けのプリント**

3　まとめ

本実践では，低学年で習熟度別指導を取り入れるため，特にコース選択を行う際のガイダンスが重要と考え，十分に担任と少人数指導担当とが打ち合わせをして授業に臨んだ。授業後にとったアンケートによれば，すべての児童から，「楽しかった」「今日の勉強がよく分かった」という回答を得た。しかし，その一方，39 名中 25 名の児童が，違うコースの学習が気になると回答しており，このことが保護者の習熟度別指導への抵抗感にもつながる可能性があり，今後内容や学習の進め方なども工夫が必要と感じた。

今回の実践では，ガイダンスの他に，各学習コースの進め方に特徴をもたせるようにした。本校での習熟度別指導への取り組みは，まだ始まったばかりである。今後，様々な単元において習熟度別指導を積極的に取り入れていこうと考えている。

少人数指導研究委員会

小学校部会　委員一覧

	氏　名	所　属　等	職　名
顧 問	山　本　博　和	ノートルダム清心女子大学	助 教 授
委 員	今　尾　　恵	玉野市立日比小学校	教　諭
〃	萱　原　幹　恵	岡山市立吉備小学校	教　諭
〃	熊　谷　典　子	倉敷市立霞丘小学校	教　諭
〃	国　定　照　興	岡山市立津島小学校	教　諭
〃	中　島　勝　巳	総社市立総社小学校	教　諭
〃	平　内　基　広	落合町立落合小学校	教　諭
〃	三　嶋　　緑	井原市立出部小学校	教　諭
〃	湯　浅　末　子	高梁市立高梁小学校	教　諭
〃	楠　　博　文	県教育センター	指導主事（主査）
〃	加　藤　　晃	高梁教育事務所学校教育課	指導主事

事 務 局

氏　名	所　属　等	職　名
板　谷　正　夫	県教育庁指導課	課　長
遠　藤　昌　代	県教育庁指導課	総括指導主事
林　　直　人	県教育庁指導課	課長補佐
國府島　知　子	県教育庁指導課	指導主事（主幹）
河　合　浩　一	県教育庁指導課	指導主事

平成 15 年 3 月発行

少人数指導の手引き（小学校編）

編集・発行　岡山県教育庁指導課
〒700-8570　岡山市内山下 2 丁目 4 番 6 号
TEL（086）226-7584　FAX（086）224-3035
URL　http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/sido/sido.htm
E-Mail　sido@pref.okayama.jp